

第12回山形家庭裁判所委員会議事概要

- 1 開催日時 平成21年7月6日(月)午後1時30分から午後4時まで
- 2 開催場所 山形家庭裁判所第1会議室(5階)
- 3 出席委員 井上知子, 遠藤正明, 菊地利一, 倉岡憲雄, 齋藤明彦, 齋藤由美子, 堂免雅樹, 松田清(委員長), 三澤栄治, 光岡弘志, 峯田義郎
- 4 列席職員 青山一事務局長, 原千枝子首席家庭裁判所調査官, 中村英夫首席書記官, 中脇慎二郎事務局次長, 木村雅宣総務課長

5 議事要旨

- (1) 山形家庭裁判所長松田清あいさつ
- (2) 新任委員自己紹介
- (3) 委員長選出(松田委員を選出)
- (4) 議題

ア 家事事件の概況について

首席書記官から, 統計表に基づき, 近年及び平成20年度の事件動向等について説明した。

イ 面接交渉(面会交流)について

首席家庭裁判所調査官から, 面接交渉について説明した後, 面接交渉を題材にした最高裁判所作成のDVD「子どものいる夫婦が離れて暮らすとき考えなければならないこと」を視聴した上で, 委員による意見交換を行った。

<主な意見>

- 当事者は離婚したいという自分達の感情が優先して, 子どもへの気遣いまで至らないように思える。映像では, 当事者の親も離婚問題に関与しているが, 現実にはそのようなケースは少ないのではないか。
- 現実の調停でも子の監護が絡んだ事案の解決は難しい。
- 県の相談窓口への相談数としては, 夫婦間の問題が一番多い。相談者の中には裁判所に調停の申立てをした人もいる。

- 離婚するかどうかを考える際、子どもを父親がいない状況にしてしまうことにちゅうちょして悩むケースも多い。また、女性も仕事に就いて自立しているケースが増えているものの、多くは給料などの経済的な問題で子どもを養育していけるか不安に思う人がいる。たしかに、親が離婚することによって子どもが傷つくこともあるが、離婚しないことが必ずしも子どもにとってのベストな選択にならない場合もあるのではないか。その意味で、この DVD を見ることによって、自分さえ我慢すればよいと考え、離婚を思いとどまる女性がいなか心配である。
- 離婚の相談に来る人が抱える問題はケースバイケースであるが、子どもの養育の問題、経済的な問題、精神的な問題を抱えている人はいる。
- 父親が子どもを引き取ったケースでは、母親が面会することで思春期の女の子の身体の変化に適切な対応ができたという事例があった。
- 面接交渉にかかる履行勧告の数はそれほど多くないが、履行勧告には実際に難しい問題もあり、改めて調停手続をやり直すことが少なくない。
- 当事者間で合意ができた調停事件において、合意した内容に面接交渉の条項が含まれていてもそのとおりに履行してもらえないケースがある。
- 調停で合意した内容の履行状況はよく分からない。中には面会をさせてもらえなくても権利当事者があきらめているケースがあるかもしれない。
- 当事者の本音としては子どもに会わせたくないという人が多いのではないか。

ウ 少年審判廷の説明

光岡委員が、改装され、当事者参加に意を払った少年審判廷の説明を行った。

(5) 次回の予定

次回の意見交換のテーマについては委員長に一任する。

(6) 次回予定期日

平成22年2月8日(月)午後1時30分から午後4時まで

山形家庭裁判所委員会委員名簿

(平成21.6.16現在)

	氏名	職業等
1	井上知子	家事調停委員
2	遠藤正明	山形県PTA連合会会長
3	菊地利一	山形市総務部次長
4	倉岡憲雄	山形県弁護士会所属弁護士
5	齋藤明彦	山形地方法務局戸籍課長
6	齋藤由美子	山形県男女共同参画センター企画主任
7	佐藤義亀	テレビュー山形報道制作部長
8	高橋誠一郎	七日町メンタルクリニック院長
9	堂免雅樹	山形地方検察庁検事
10	松田清	山形家庭裁判所長
11	三澤栄治	山形商工会議所事務局次長
12	光岡弘志	山形家庭裁判所裁判官
13	峯田義郎	東北芸術工科大学大学院教授

(五十音順)